

# 村上市地域公共交通網形成計画（素案）

令和2年8月

## <目 次>

---

<b>第1章 計画の目的および関連計画の整理</b> .....	<b>1</b>
1.1 計画策定の目的 .....	2
1.2 計画対象地域 .....	2
1.3 計画期間 .....	2
1.4 計画の位置づけ .....	3
1.5 上位計画・関連計画の整理 .....	4
<b>第2章 地域および公共交通の現状</b> .....	<b>9</b>
2.1 地域の現状 .....	10
2.2 交通の特性 .....	24
<b>第3章 公共交通の課題</b> .....	<b>34</b>
<b>第4章 村上市地域公共交通総合連携計画の評価</b>	
<b>第5章 基本的な方針</b>	
<b>第6章 施策・事業</b>	
<b>第7章 計画の達成状況の評価</b>	

## 第1章 計画の目的および関連計画の整理

## 1.1 計画策定の目的

---

村上市では、平成 22 年度に策定した「村上市地域公共交通総合連携計画」に基づき、路線バスを中心とした公共交通網の見直しを図るとともに、目的別にのりあいタクシーを運行するなど、市民の移動手段の維持確保に取り組んできました。

しかし、連携計画の策定以降、少子高齢化や人口減少などの影響により、当市における公共交通利用者は依然減少傾向にあるとともに、村上市総合病院の移転など、公共交通を取り巻く環境が変化しています。また、交通事業者における運転手不足や経営状況の悪化に伴う路線廃止、のりあいタクシーの路線増設や利用者の減少に伴う市の財政圧迫などにより、公共交通の維持が厳しい状況となっています。

このような状況を踏まえ、地域の現状に応じた持続可能な公共交通網を構築するため、公共交通に関する今後の取り組みの方向を示すことを目的として、「村上市地域公共交通計画」を策定します。

## 1.2 計画対象地域

---

村上市全域 (1,174.26 km<sup>2</sup>)

## 1.3 計画期間

---

令和 3 年度～令和 7 年度 (5 年間)

## 1.4 計画の位置づけ

- 本計画は、村上市の最上位計画である「第2次村上市総合計画」に即した、公共交通のマスタープランとして位置付けられます。
- また、村上市都市計画マスタープランや関連計画と連携する計画です。

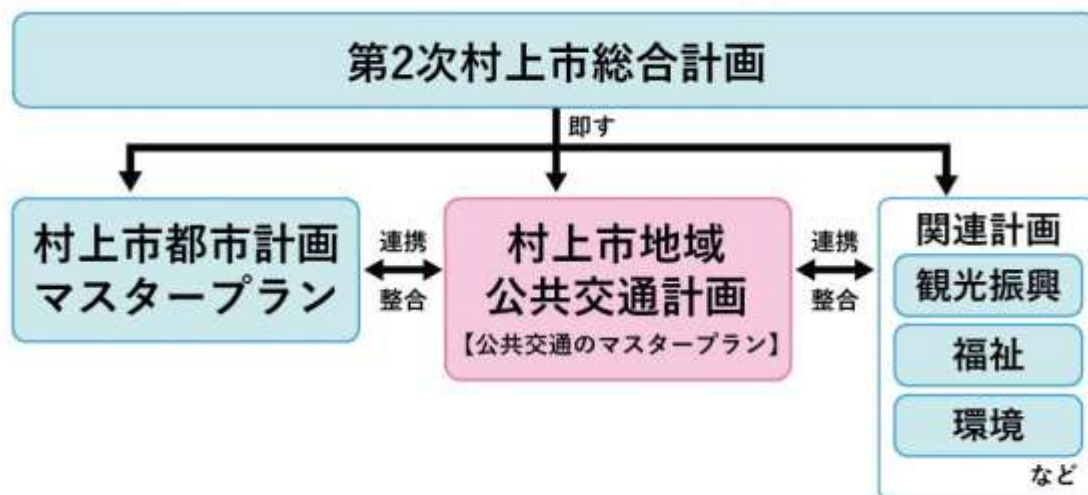


図 計画の位置づけ

## 1.5 上位計画・関連計画の整理

### (1) 第2次村上市総合計画（計画期間：H29～R3年度 H29.3策定）

○総合計画では、「利便性・快適性・交流性の高い移動環境の充実」、「公共交通の積極的な利用を推進」、「関係機関と連携を強化」することが方針として示されている。

#### 【まちの将来像】

やさしさと輝きに満ちた **笑顔のまち村上**

基本目標1. いきいき元気な笑顔輝く、支え合いのまちづくり

**基本目標2. ひと、まち、自然が調和する、美しい定住のまちづくり**

基本目標3. 産業が創る地域の誇り、活力みなぎる賑わいのまちづくり

基本目標4. いのちと故郷を絆で守る、安全安心なまちづくり

基本目標5. 伝統と文化を育む、すこやか郷育のまちづくり

基本目標6. ひとりひとりが活躍する、市民が主役のまちづくり

#### ■基本目標2. ひと、まち、自然が調和する、美しい定住のまちづくり

□本市の豊かな自然や美しい景観を守りつつ、利便性と安全性の高い調和のとれたまちづくりを目指します。

- ・豊かな自然環境と美しい景観を後世に引き継ぐための環境保全活動を進めます。
- ・自然エネルギーの利用やリサイクル率の向上などに努め、環境に低負荷な循環型社会の形成を推進します。
- ・豊かで美しい環境や景観などを生かし、自然や文化と調和する都市の形成を目指します。
- ・人と環境に配慮した長寿命で高耐久な社会基盤の整備を推進します。
- ・日本海沿岸東北自動車道の市内全線開通を見据え、交通ネットワークの高度化や利便性の向上を進めます。

#### ■政策2-8 生活交通の確保・充実

##### 【政策の方針】

- ・公共交通機関を必要とする市民の多様な生活様式や世代に対応し、利便性・快適性・交流性の高い移動環境の充実を目指します。
- ・既存のバス路線をはじめ、デマンドタクシーや委託路線バスの維持・確保、鉄道と協調した利便性向上の検討や、環境への配慮からも公共交通の積極的な利用を推進していきます。
- ・広域的交通体系の確保・充実のため、関係機関と連携を強化します。

## ■交通ネットワークの形成

広大な面積に小さな集落が点在する本市は、中心となる市街地圏域と各地区の生活圏域を繋ぐ交通が重要となりますが、これらの道路や鉄道などの延長が大変長いものとなり、移動にかかる時間も長くなります。

こうした中、日本海沿岸東北自動車道が本市の南北を貫くことで、将来、移動時間は大幅に短縮することとなります。

また、物流、通勤、交流人口※に多大な影響を及ぼすことが推察されるほか、各地区生活圏域から中心市街地の機能が利用しやすくなることから、市街地圏域が担う役割や機能がより高まることが期待されます。

今後、本市の土地利用を具現化していく中で、日本海沿岸東北自動車道を中心に国道7号、国道113号、JR羽越本線及びJR米坂線などを地域間移動の「広域軸」として捉え、「市街地圏域」と「生活圏域」、「交流拠点」などとの繋がりを生活道路や身近な公共交通である「地域・生活軸」によってネットワークしていくことが重要となります。これにより、生活圏域の住みやすさと市街地圏域が持つ利便性を調和させることができるとともに、本市の一体的な土地利用が実現します。

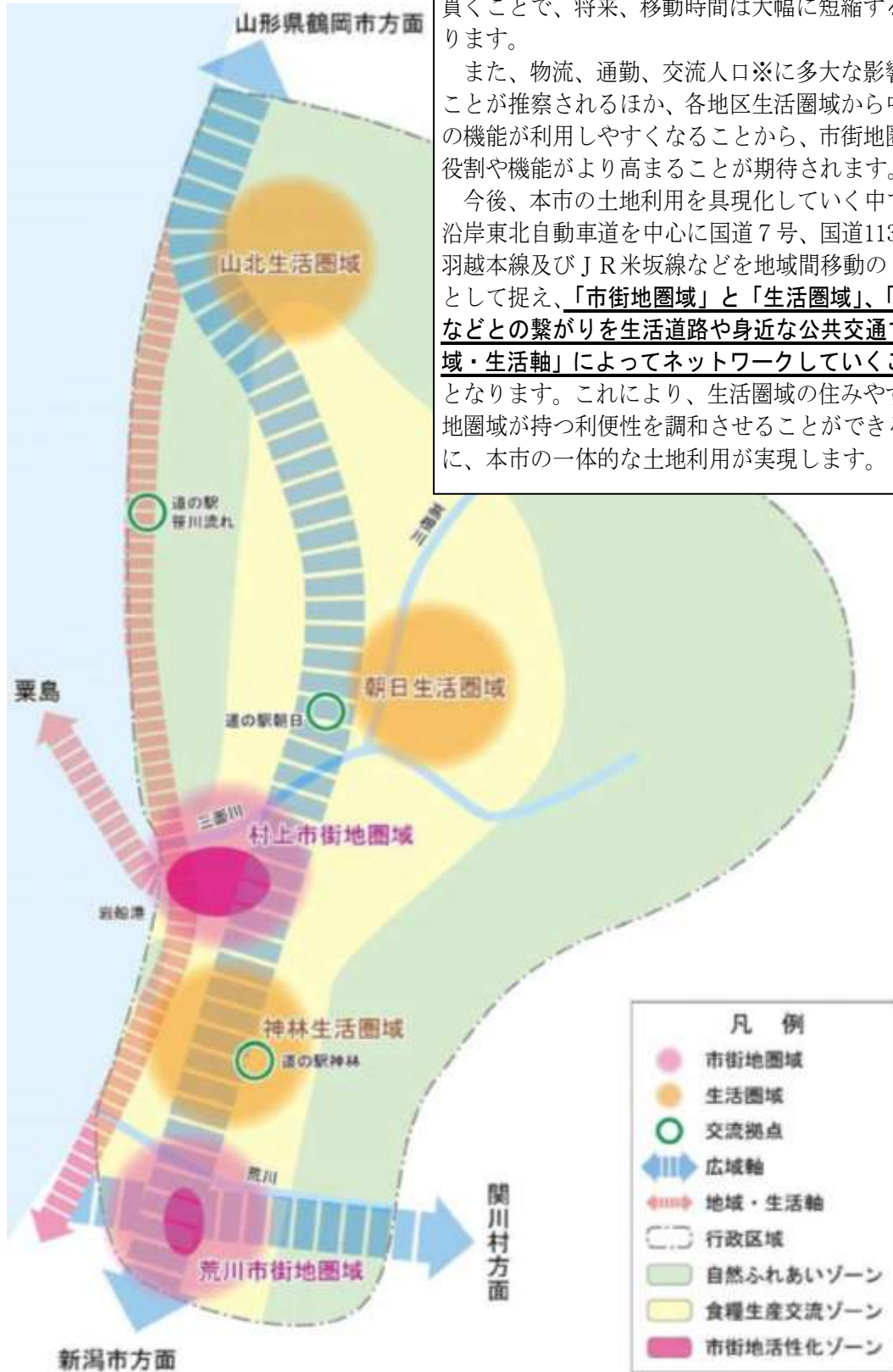


図 土地利用構想図

## (2) 村上市都市計画マスタープラン（目標年：R12 H22.3 策定）

○都市計画マスタープランでは、「公共交通などへの転換促進」が示されており、  
 その中で、5つの施策が示されている。

- 【交通体系の方針】**
- (1) 道路網体系（ネットワーク）づくり
  - (2) 歩行・走行環境の整備
  - (3) 公共交通などへの転換促進



### ■交通体系の方針（3）公共交通などへの転換促進

○今後、自動車を運転しない高齢者などの増加とともに、地球環境への負荷軽減や健康管理への意識が高まる中、これまでの自動車に過度に依存した交通体系を見直し、誰もが移動しやすい公共交通が充実したまちを目指します。

○なお、市民の意識やライフスタイルが「自家用車による移動」から「公共交通や自転車による移動」へ徐々に変化していくよう、積極的な取り組みを目指します。

表 施策

鉄道駅の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR村上駅をはじめ市内に11箇所ある鉄道駅については、交通結節点としてパーク＆ライド、駐輪場、バスプール（バス乗り場・バスターミナル）などを整備し、乗継ぎ機能の向上を目指します。</li> <li>・近隣住民や鉄道利用者の利便性、快適性改善のため、トイレ付き休憩機能や植樹による木陰の創出など、環境整備とその維持保全を目指します。</li> <li>・鉄道駅において、最寄りの観光名所や周遊ルートの案内情報を表示するなど、鉄道を利用する観光客のための利便性向上を目指します。</li> <li>・JR村上駅については近年、駅西側で商業施設や住宅地整備により都市機能の充実が進められていることから、橋上駅化も視野に駅西口の開設を目指します。</li> </ul>
バスの利便向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス利用者増大のため、定時制の確保、鉄道（各駅とのダイヤや乗り継ぎ接続など）、船舶（岩船港とのダイヤや乗り継ぎ機能など）とバスとの連携向上を目指します。</li> </ul>
岩船港の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古くから岩船圏域や山形県小国・米沢方面の重要な海の玄関口となっている岩船港周辺は、市内交通拠点から港にアクセスする道路の整備を促進するとともに、栗島への観光客や島民の生活物資輸送のターミナル港としての整備を目指します。</li> </ul>
新たな公共交通システムへの転換	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市が策定する地域公共交通総合連携計画に基づき、通院、買物、通勤通学、観光、福祉など多様な場面において、利用者が便利な公共交通機能を享受できるよう、デマンド型乗合タクシーなども含めた新たな仕組みづくりを図ります。</li> </ul>
パーク＆ライドのための環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR村上駅をはじめとした鉄道駅の駐車場整備により、主として市民の日常生活における自動車と公共交通の乗継ぎ機能の向上を目指します。</li> <li>・町屋や旧武家町などまちなかの観光地については、自動車で訪れる来訪者の流入を抑制し快適な歩行環境を形成していくため、まち中の観光地の外側における駐車場整備と、そこから徒歩や自転車、公共交通などでまちなかを観光できるような仕組み・環境づくりを目指します。</li> <li>・市街地の外側にある観光地への誘導については、各観光地に駐車場を整備するほか、日東道IC付近の「道の駅」などを活用して、自動車から他の移動手段へ乗り継ぎ、周遊する形態への利用転換を目指します。</li> </ul>





図 道路交通網

(3) 第2次村上市観光振興計画（計画期間：H29～R3年度 H29.6策定）

○観光振興計画における取り組み内容として、「二次交通の整備」、「乗り継ぎマップの作成」が具体的な内容として示されている。

**【基本方針】**

- (1) 誇りを活力に  
～地域資源に対する誇りを育み、産業に活かしていくことで、活力のあるまちに～
- (2) 笑顔を賑わいに  
～おもてなし環境や施設の魅力を高め、多彩なイベントでお客様を迎える  
「笑顔と賑わいのまち」に～
- (3) 広がりを発展に  
～国際的な広がり、広域的な広がり、組織的な広がりにより、  
次世代に向けて発展する観光のまちに～

**【取り組み内容】**

- I 訪日外国人観光客増加対策
- II 観光客の二次交通整備**
- III 滞在型観光地の形成
- IV 観光施設の整備と活用促進
- V 観光プロモーションやPRの強化
- VI 観光推進体制の整備
- VII おもてなし環境の向上



**■取り組み内容II 観光客の二次交通整備 [二次交通の整備]**

- ・合併により広大な面積となった本市では、拠点となる駅からの二次交通の課題があります。観光客の利便性を高め、本市の多種多様な観光の魅力を活かすために、二次交通整備の必要があります。
- ・乗り継ぎマップの作成により既存交通手段の有効活用を図りながら、新たな手段の研究を進めます。

## 第2章 地域および公共交通の現状

## 2.1 地域の現状

### (1) 地勢

- 新潟県の北端に位置し、北から東にかけては山形県に接しています。
- 村上地区と荒川地区に主な中心市街地が形成されている一方で、広大な平野部や中山間部、細く長い海岸部に集落が点在しています。



図 村上市の地勢 資料) 国土交通省 土地利用  
細分メッシュデータ

## (2) 人口

### 1) 人口の推移

○村上市の人口は年々減少傾向にあり、平成27年の人口は62,442人で、平成2年と比較すると14,069人(約18%)の減少となっています。

○総人口が減少傾向にある一方で、65歳以上の高齢者の人口は増加傾向にあります。

○平成27年の高齢化率は36%で、このままのペースで高齢化が進むと、令和27年には総人口の約半数(48%)が高齢者になると予測されています。

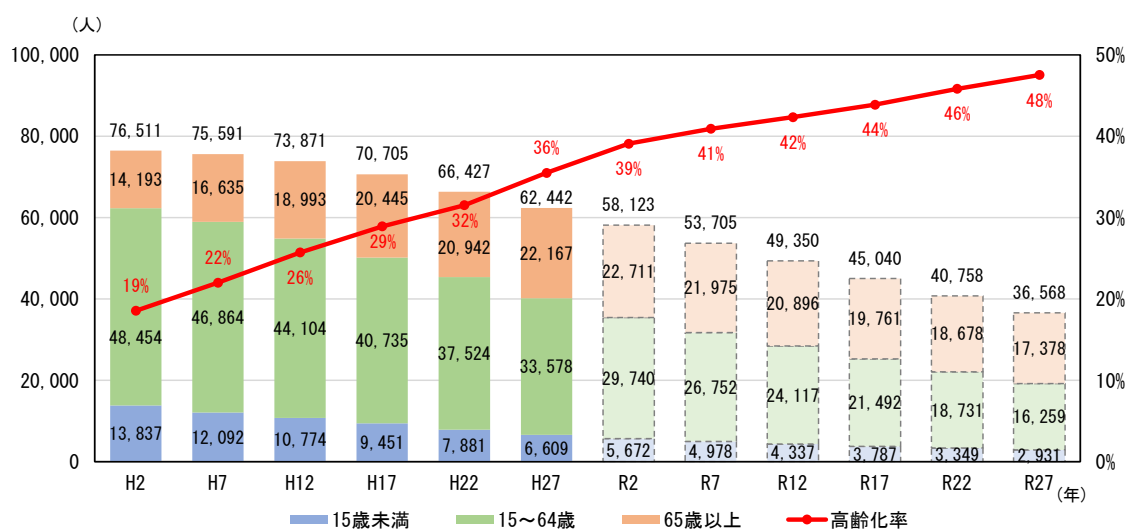


図 人口の推移

※総人口は年齢不詳を含むが、年齢別人口には年齢不詳を除くため合計が一致しない場合がある。

資料：国勢調査(H2～H27)、国立社会保障・人口問題研究所(R2～R27)

## 2) 地区別の人口

○地区別でみると、山北地区の平成27年の人口は5,803人で、平成2年と比較すると2,893人(33%)減少しており、人口減少が顕著にみられます。

○また、山北地区は高齢化が最も進んでおり、平成27年の高齢化率は47%となっています。

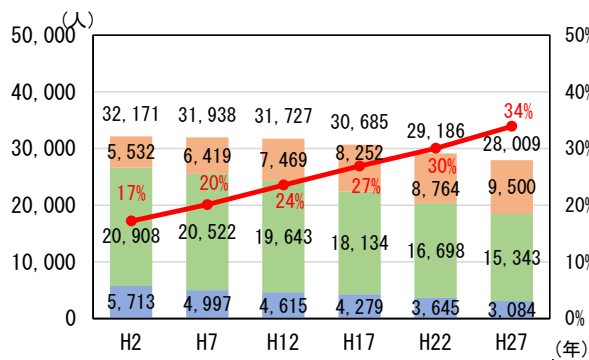


図 村上地区の人口推移

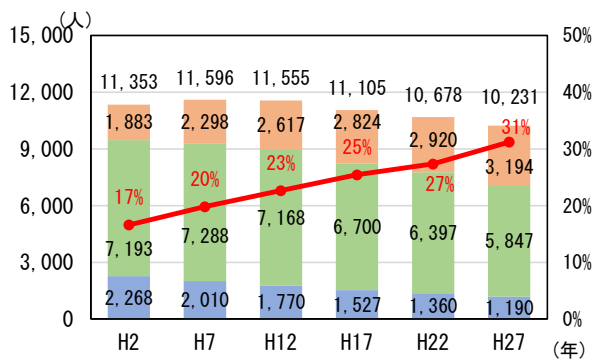


図 荒川地区の人口推移

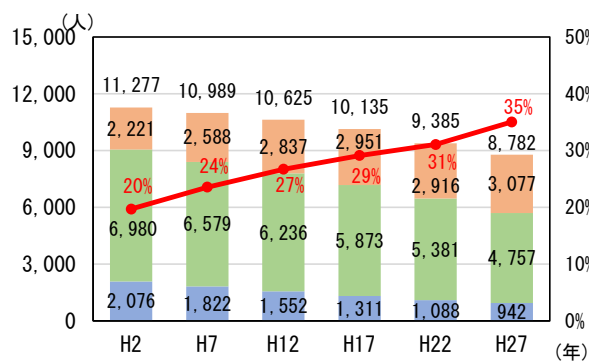


図 神林地区の人口推移

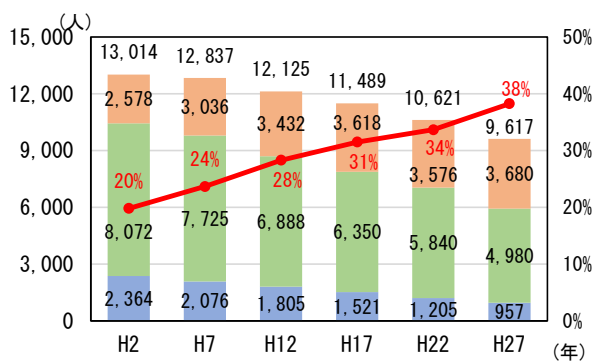


図 朝日地区の人口推移

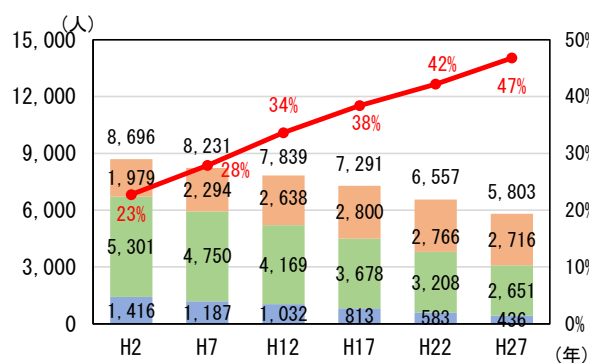


図 山北地区の人口推移

凡例	
<span style="color: blue;">■</span>	15歳未満
<span style="color: green;">■</span>	15~64歳
<span style="color: orange;">■</span>	65歳以上
<span style="color: red;">●</span>	高齢化率

※総人口は年齢不詳を含むが、年齢別人口には年齢不詳を除くため合計が一致しない場合がある。

資料：国勢調査（H2～H27）

### 3) 人口分布

○人口はJ R村上駅周辺に集中しています。

○河川や海岸周辺に人口が分布しているほか、山北地区や朝日地区では中山間部に人口が広く点在しています。

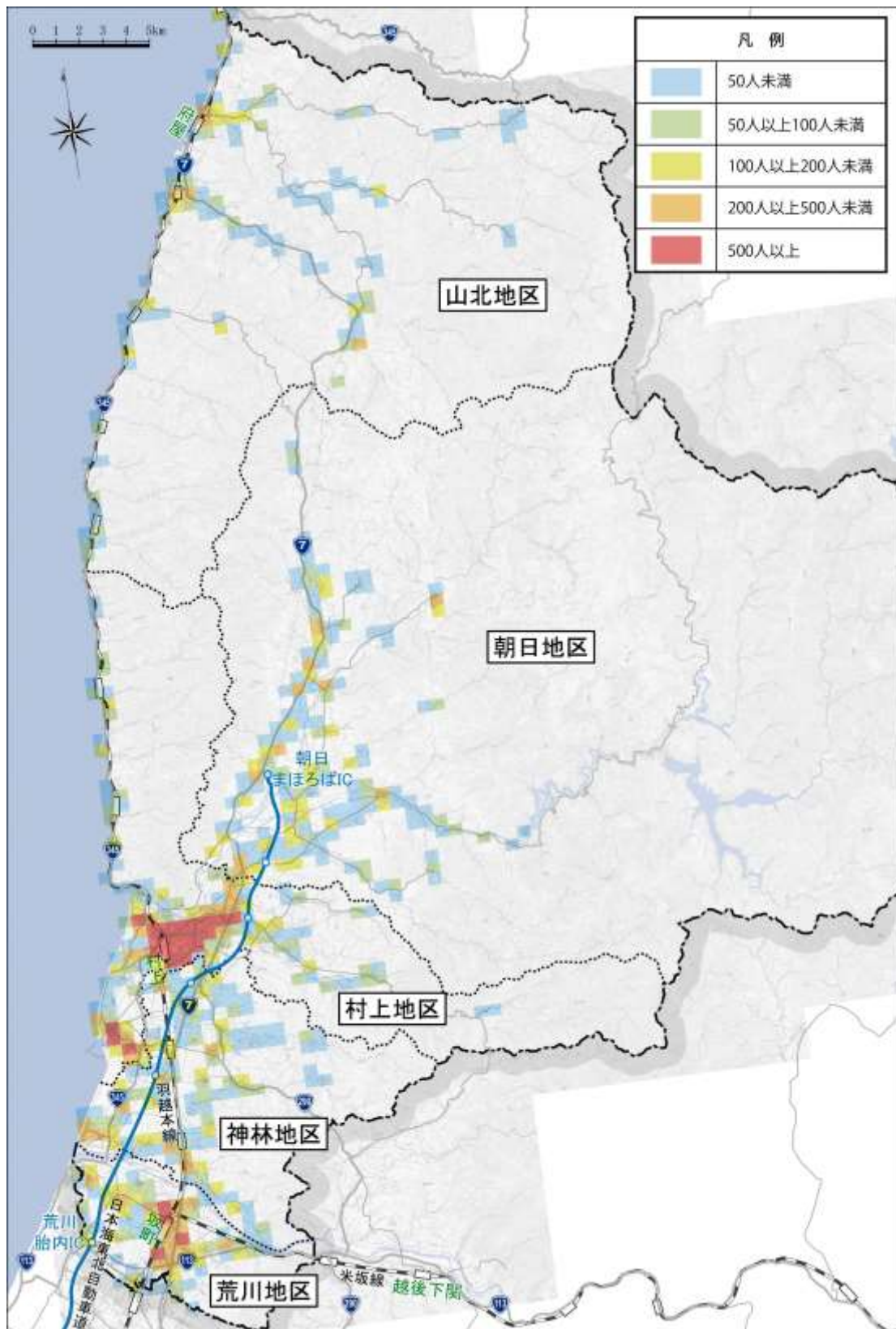


図 人口分布

資料：国勢調査（H27）  
※250mメッシュ

#### 4) 運転免許の保有状況

- 村上市の人口と同様に、運転免許保有者は減少傾向にあり、令和元年は41,749人です。
- 運転免許保有者のうち、65歳以上の高齢者は14,054人で、全体の34%を占めています。
- 近年、全国的に高齢運転者による交通事故が問題となっています。村上市では運転免許を自主返納した高齢者に対し、瀬波温泉旅館協同組合加入の温泉施設で利用料金の割引などを行っており、運転免許の返納者数は年々増加しています。

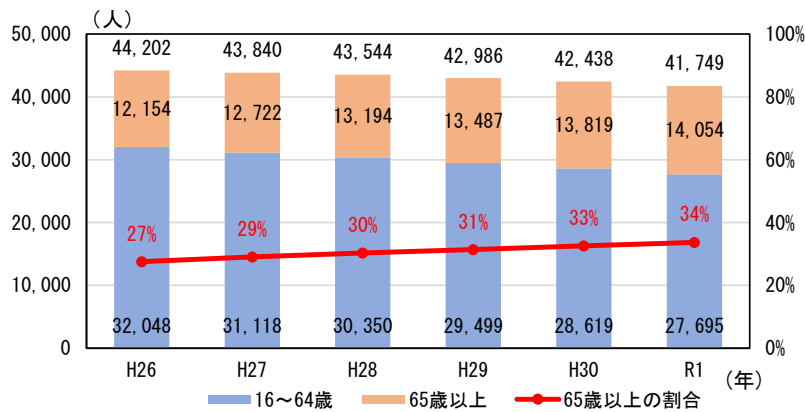


図 運転免許の保有者数

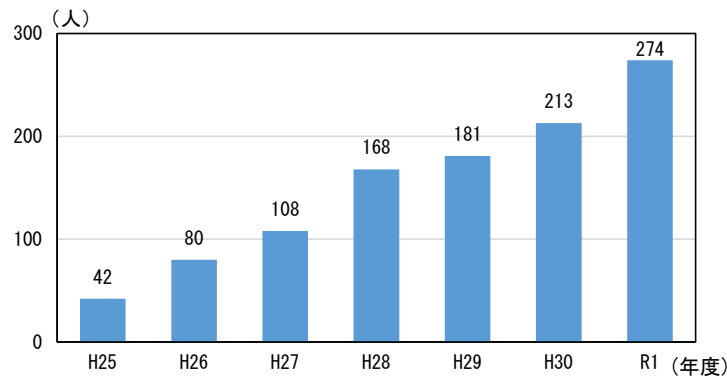


図 運転免許の返納者数

資料：村上市

#### ■参考：高齢者の加害事故

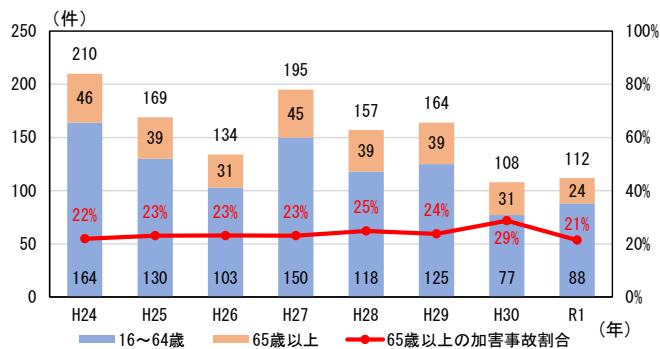


図 加害事故の発生件数

資料：村上市



### (3) 通勤・通学での流動

- 通勤は、流出・流入ともに胎内市が最も多くなっています。
- 通学は、流出は新潟市が最も多く、流入は胎内市が最も多くなっています。
- また、通勤・通学ともに流出人口が流入人口を上回っています。

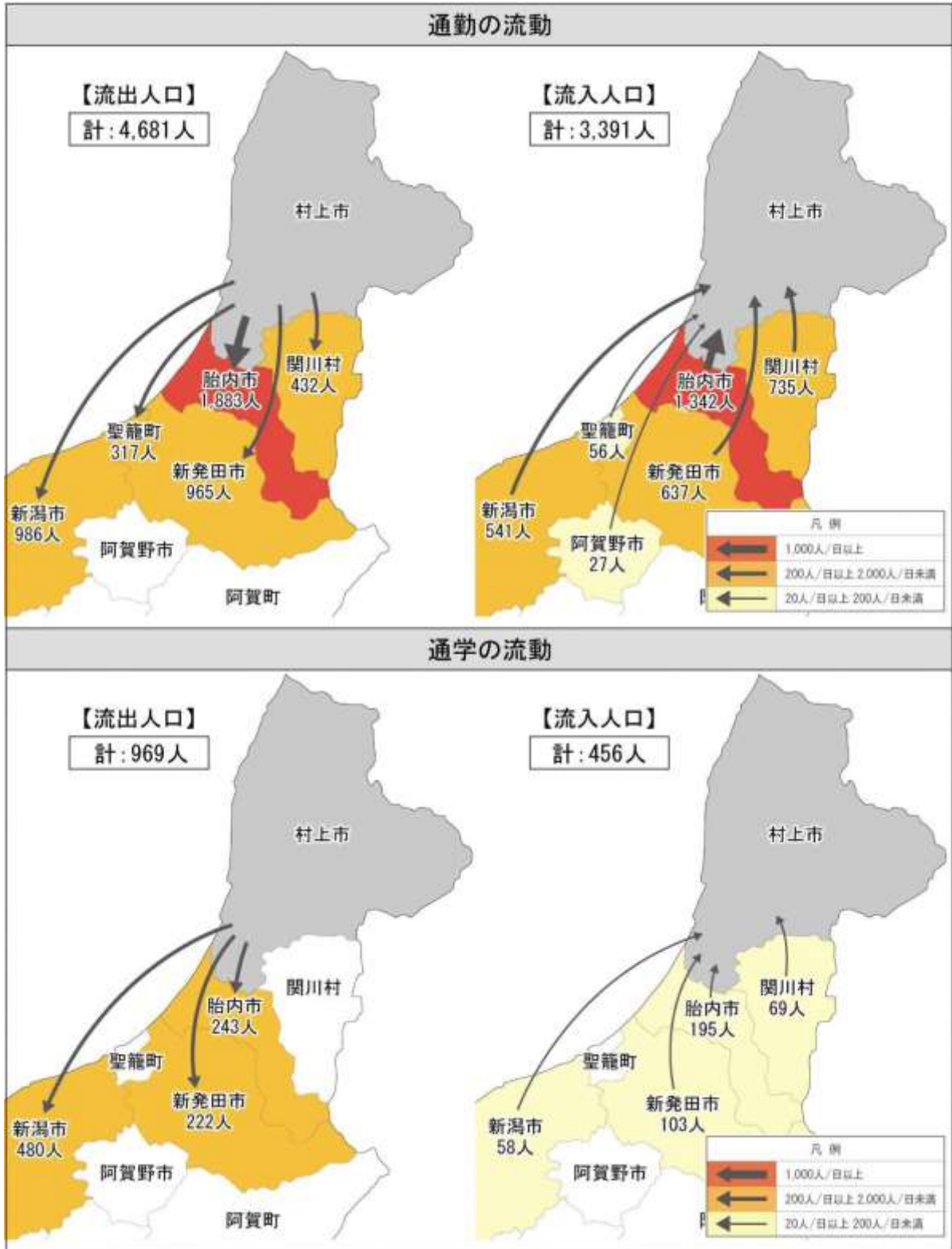


図 通勤・通学の流動人数

※20人未満の市町村は省略  
 ※15歳以上の通学者数  
 資料：国勢調査（H27）

(4) 土地利用・施設分布

1) 医療施設

- 医療施設は、J R 村上駅周辺に集中しているほか、各地区に点在しています。
- また、村上総合病院は令和2年12月に村上駅の東側から西側へ移転しました。



図 病院の立地

資料：村上市

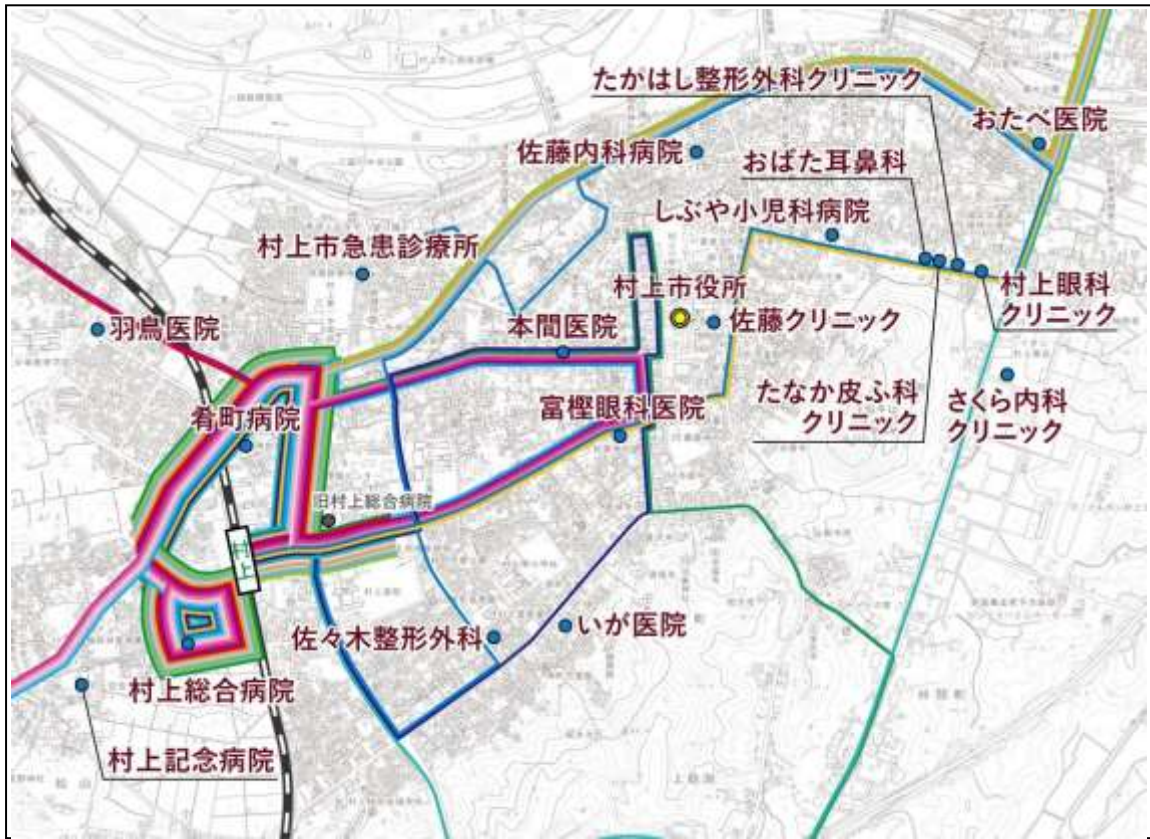


図 村上駅周辺の病院の立地

資料：村上市

## 2) 商業店舗

○大規模小売店舗は、村上地区の国道7号線沿いに多く立地しています。



図 商業施設の立地

資料：新潟県内大規模小売店舗一覧 (R1.8)

### 3) 学校

○学校は、J R 村上駅周辺に多く立地しているほか、各地区に広く点在しています。

○村上市では、小学生や中学生の通学時の移動手段の確保のために、スクールバスを運行しています。



図 学校の立地

資料：村上市

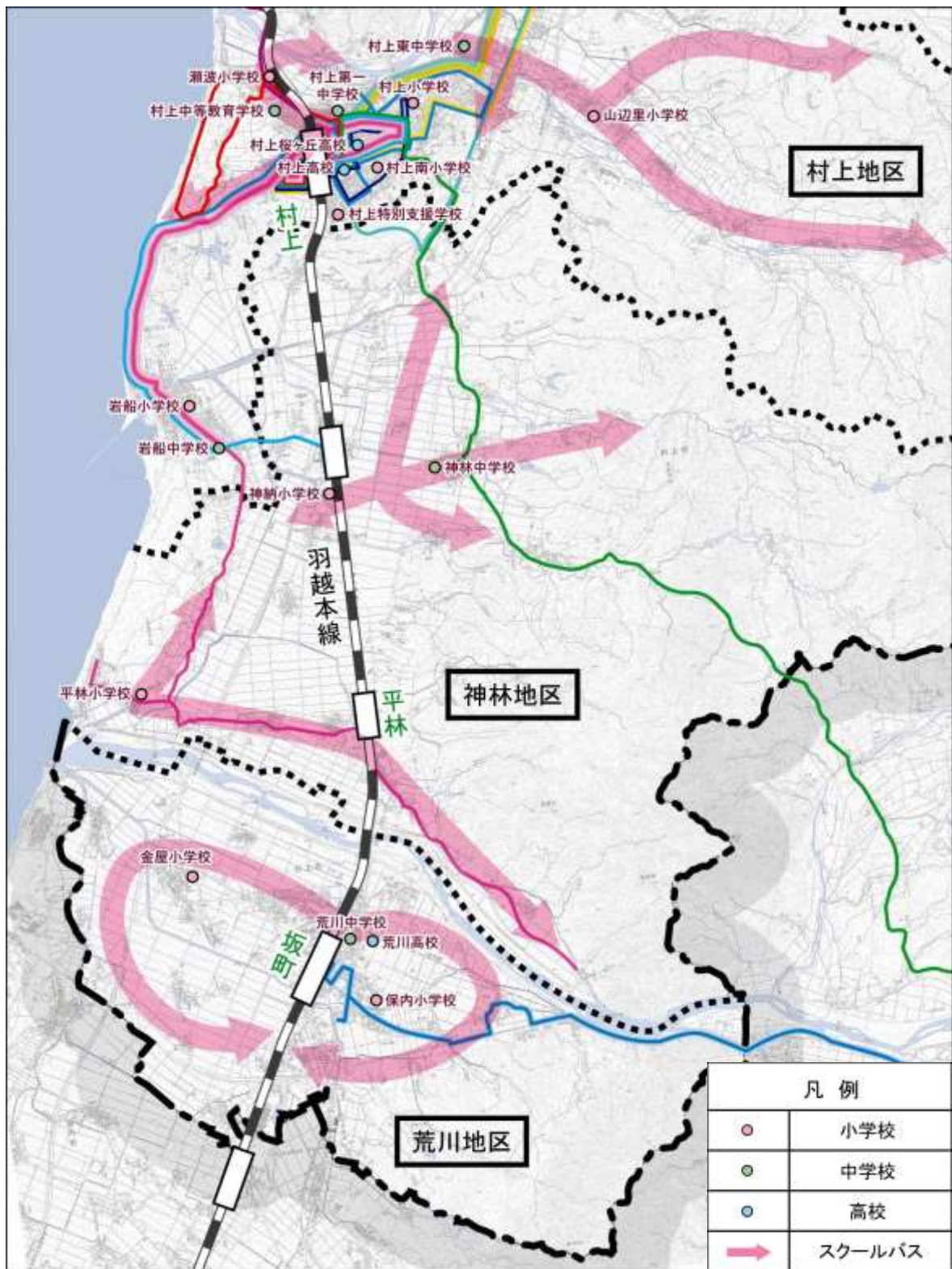


図 スクールバスの運行箇所（その1）

資料：村上市

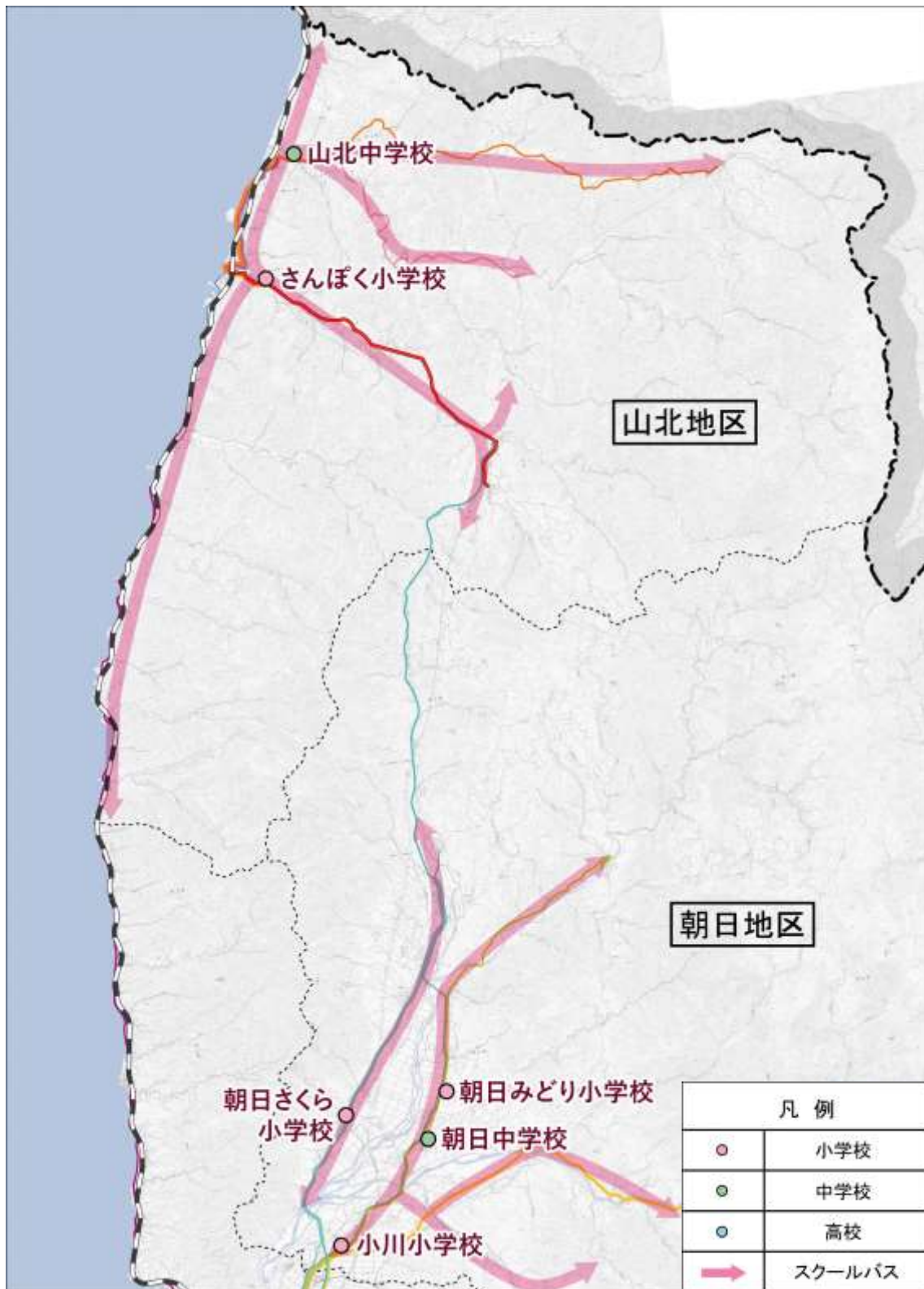


図 スクールバスの運行箇所（その2）

資料：村上市

## (5) 観光

○村上市は、温泉や街歩きなどの観光資源を有しており、平成 30 年度の観光入込客数は約 187 万人で、近年は横ばいで推移しています。

○村上市内では、瀬波温泉の入込客数が最も多く、平成 30 年度は約 34 万人となっています。また、町屋の人形さま巡りやイヨボヤ会館など、村上市中心部の観光資源もあります。

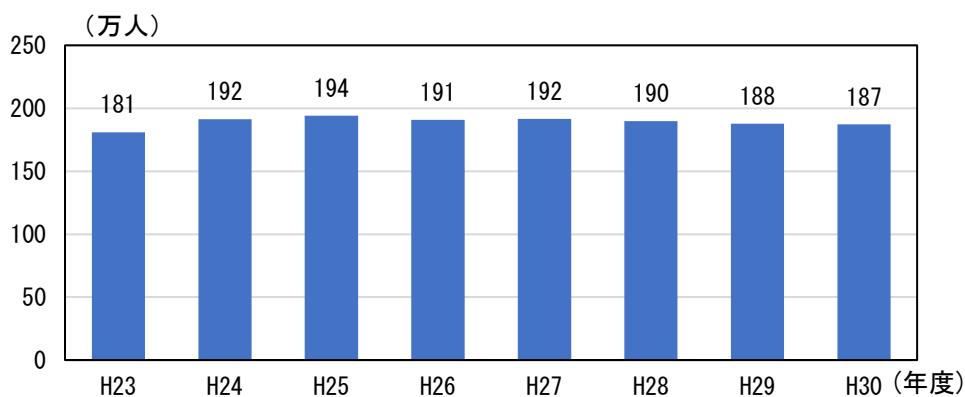


図 観光客入込数

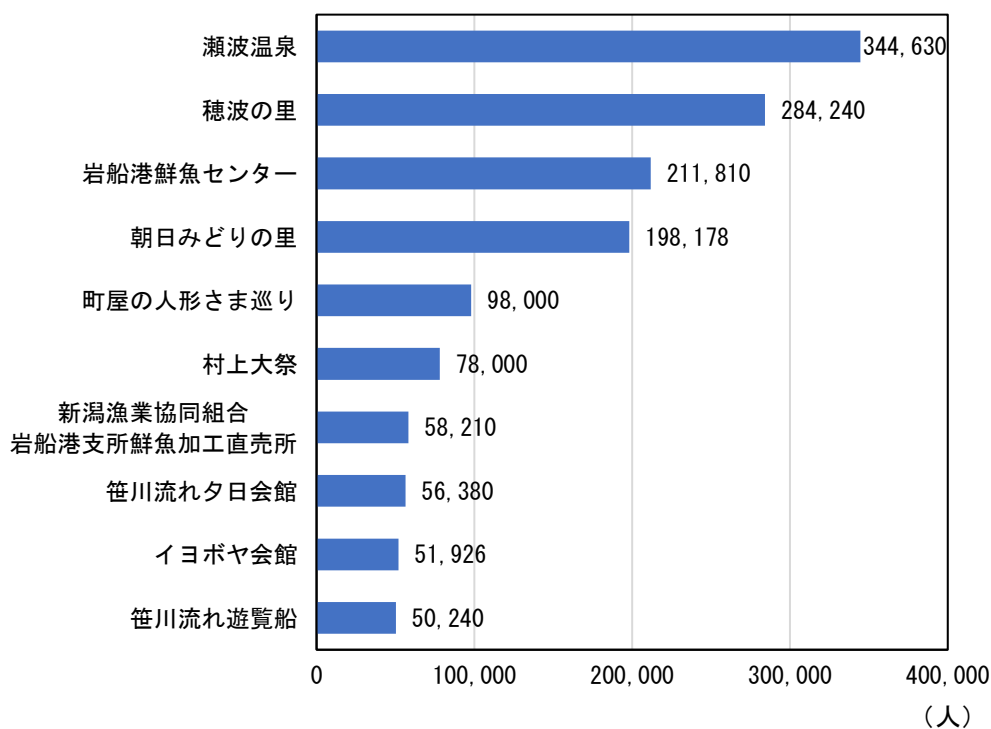


図 主要観光地点入込客数（平成 30 年度）

※年間入込数が 5 万人以上の観光地点のうち公表可能なものを掲載

資料：新潟県観光入込客統計（H23～H30）





図 観光地の立地

※年間入込数が5万人以上の観光地点のうち公表可能なものを掲載  
資料：新潟県観光入込客統計（H30）

## 2.2 交通の特性

### (1) 村上市の公共交通網

○村上市内では、鉄道、路線バス、まちなか循環バス、せなみ巡回バス、のりあいタクシー、タクシー等の公共交通が運行しています。



図 公共交通網

資料：村上市

## (2) 鉄道

○鉄道は、市域を南北に貫く JR 羽越本線（新津～秋田間）と、市の南部を走る JR 米沢線（坂町～米沢間）が運行しており、市内には 11 の駅が設置され、うち村上駅、坂町駅、府屋駅が有人駅、ほか 8 つの駅は無人駅となっています。

○村上駅の利用者数は、やや減少傾向にあります。

○羽越本線は新発田方面からの村上駅間の運行が多く、村上駅より酒田方面の運行本数は約半減しています。

表 市内主要駅の運行本数

	羽越本線 (新津方面行き)	羽越本線 (酒田方面行き)	米沢線 (米沢方面行き)	米沢線 (坂町方面行き)
村上駅	27 便	27 便	－	－
府屋駅	15 便	15 便	－	－
坂町駅	28 便	27 便	6 便	5 便

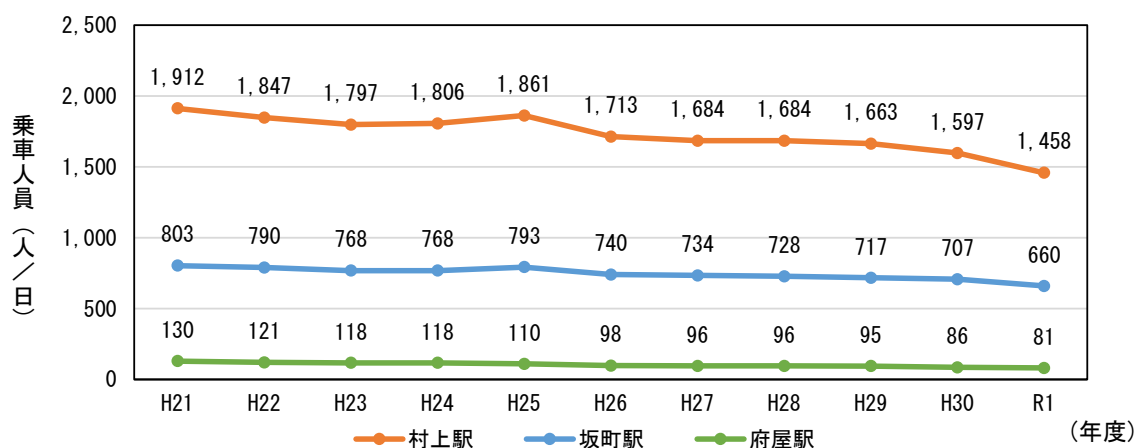


図 市内主要駅の乗車人員数の推移

資料：東日本旅客鉄道(株)

### (3) 路線バス

- 新潟交通観光バス(株)が運行する路線バスは、市内に 15 路線が運行しています。
- 年間利用者数は、動態調査結果より、約 12 万人と推定されます。(令和元年 6 月、令和元年 9 月、令和元年 11 月、令和 2 年 1 月の平均)
- 市では、路線バスを維持するため、運行欠損額を行政が負担しており、令和元年度の生活交通確保対策補助金額は約 1.73 億円となっています。

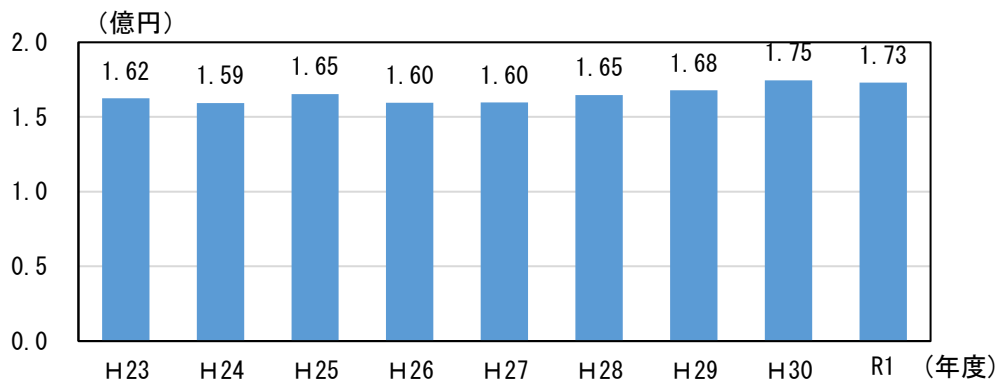


図 路線バスへの生活交通確保対策補助金額

資料：村上市

#### (4) まちなか循環バス

○まちなか循環バス（愛称：あべっ車）は、村上地区の市街地で運行しており、年間約 1.4 万人が利用しています。ルートは、JR村上駅前から新町やイヨボヤ会館を經由してJR村上駅前に戻る「大回り」と、JR村上駅前から市役所や南町を經由してJR村上駅前に戻る「小回り」があります。

##### 【運行内容】

- ・運行日：月曜日～土曜日（日曜日、祝祭日、年末年始などは運休）  
※町屋の人形さま巡り（3/1～4/3）、町屋の屏風まつり（9/15～10/15）は日曜日、祝日も運行。
- ・運賃：大人 100 円、小人（小学生）・障がい者 50 円、未就学児 無料
- ・運行便数：大回り 5 便、小回り 10 便

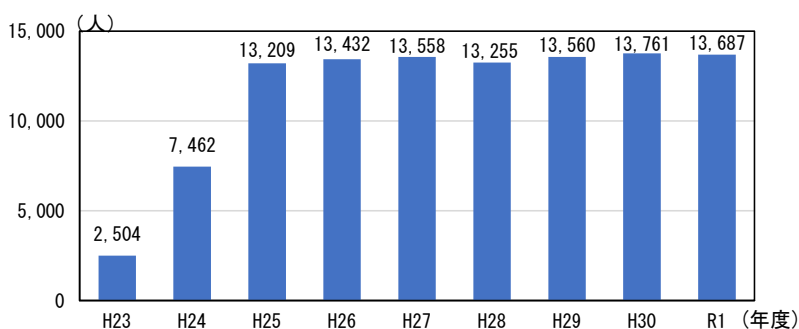


図 まちなか循環バスの年間利用者数

※平成 23 年 10 月より運行。

※平成 25 年 3 月から大回り、小回りの 2 系統で運行。

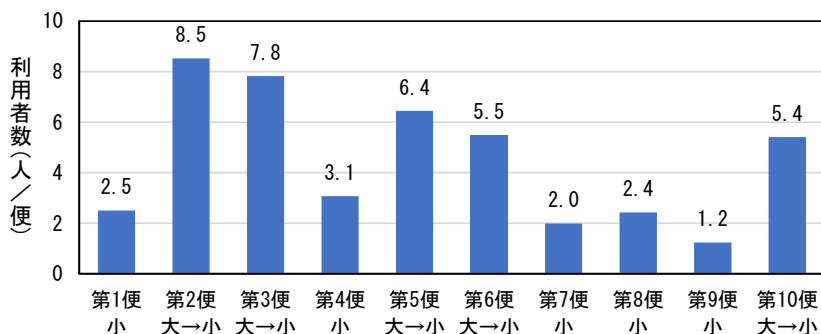


図 まちなか循環バスの 1 便あたりの利用者数（令和元年度）

※小回りは「小」、大回りは引き続き小回りとして運行するため「大→小」と記載。

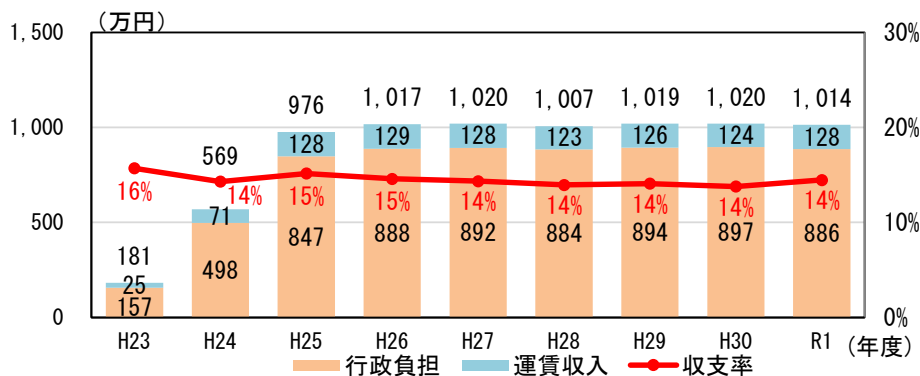


図 まちなか循環バスの運行経費

資料：村上市

### (5) せなみ巡回バス

○せなみ巡回バスは、年間約 6,400 人が利用しています。JR 村上駅から瀬波病院や瀬波市街地を經由して循環運行しており、静雲荘様付近から村上浄化センター付近までの区間は、フリー乗降区間となっています。

**【運行内容】**  
 ○運行日：月曜日～土曜日（日曜日、祝祭日、年末年始などは運休）  
 ○運賃：大人 100 円、小人（小学生）・障がい者 50 円、未就学児 無料  
 ○運行便数：4 便

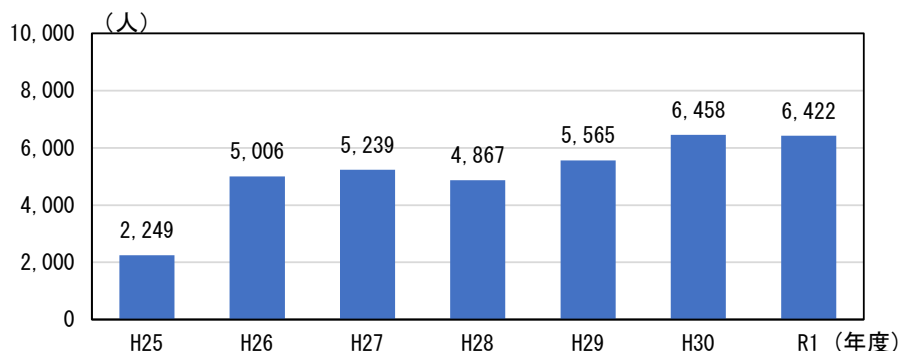


図 せなみ巡回バスの年間利用者数

※平成 23 年 10 月より運行。

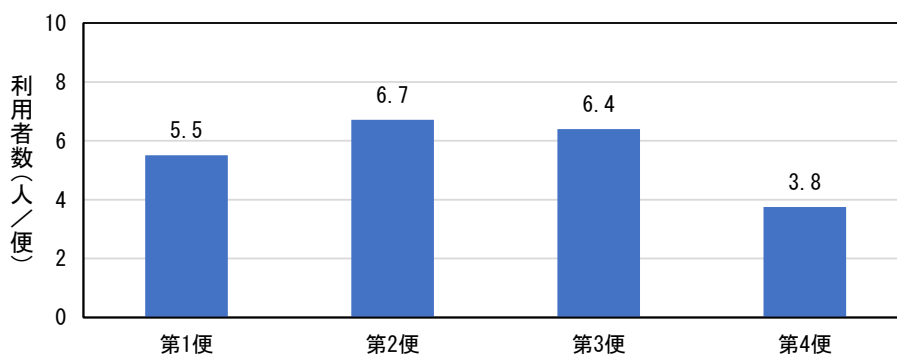


図 せなみ巡回バスの 1 便当たりの利用者数（令和元年度）

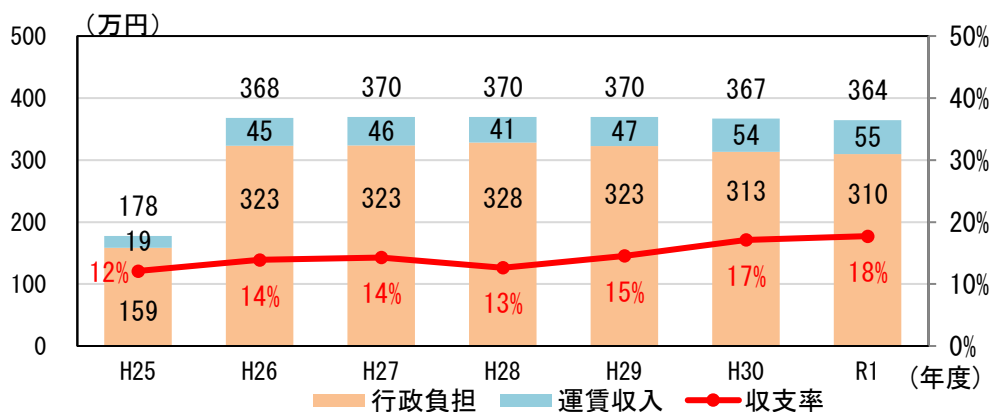


図 せなみ巡回バスの運行経費

資料：村上市

## (6) のりあいタクシー

- 交通空白地域、不便地域の解消と高齢者などの通院対応を目的として、自宅から各地区内の主要施設や村上総合病院へ送迎する「のりあいタクシー」を運行しています。
- 運行内容の見直しや路線の増設を行っており、のりあいタクシー全体の利用者数は増加傾向にあり、令和元年度は約9,900人が利用しています。
- 運行経費については、平成29年に新潟市の指定された病院への通院に対応する「高速のりあいタクシー」の運行を開始したため、平成28年以前と比較して約1,600万円増加しています。

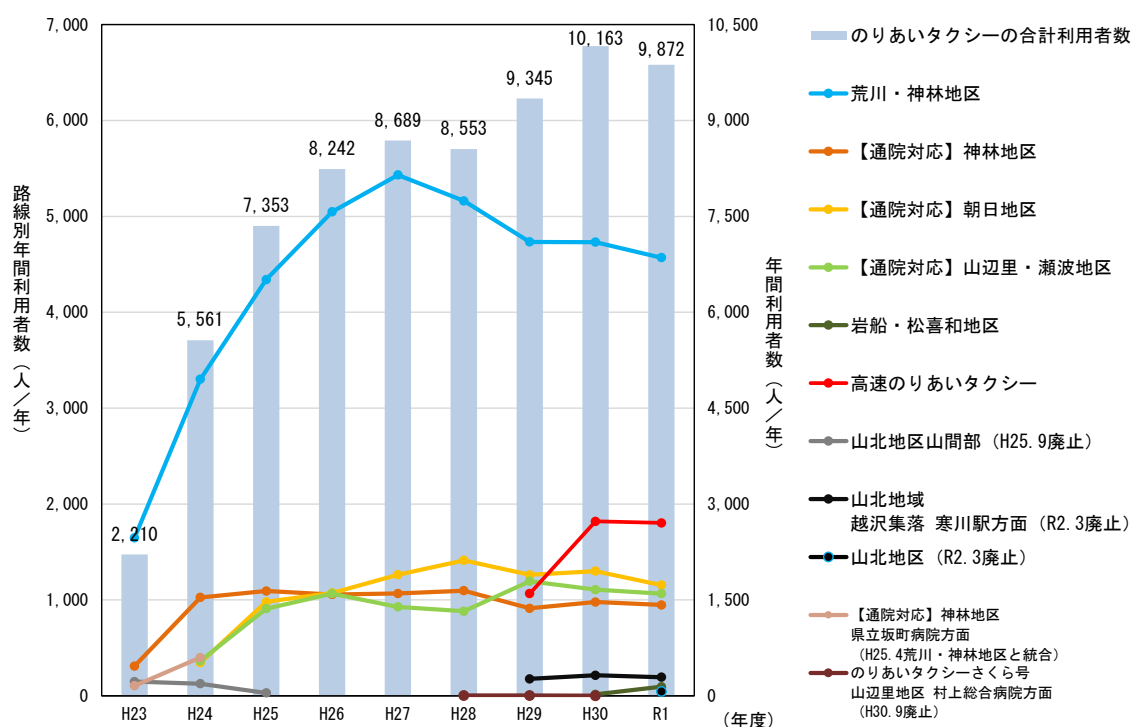


図 のりあいタクシーの年間利用者数

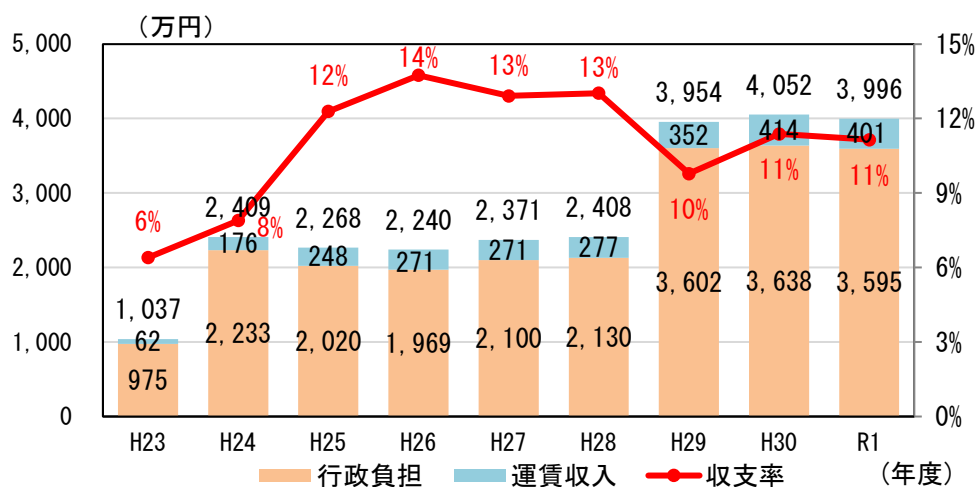


図 のりあいタクシーの運行経費 資料：村上市

- 路線別の収支率は、朝日地区通院のりあいタクシーが最も高く、令和元年度は30%となっています。
- 令和2年度時点で運行している路線のうち、最も収支率が低いのは荒川・神林地区のりあいタクシーで、平成23年の運行開始以降7%前後で推移しています。

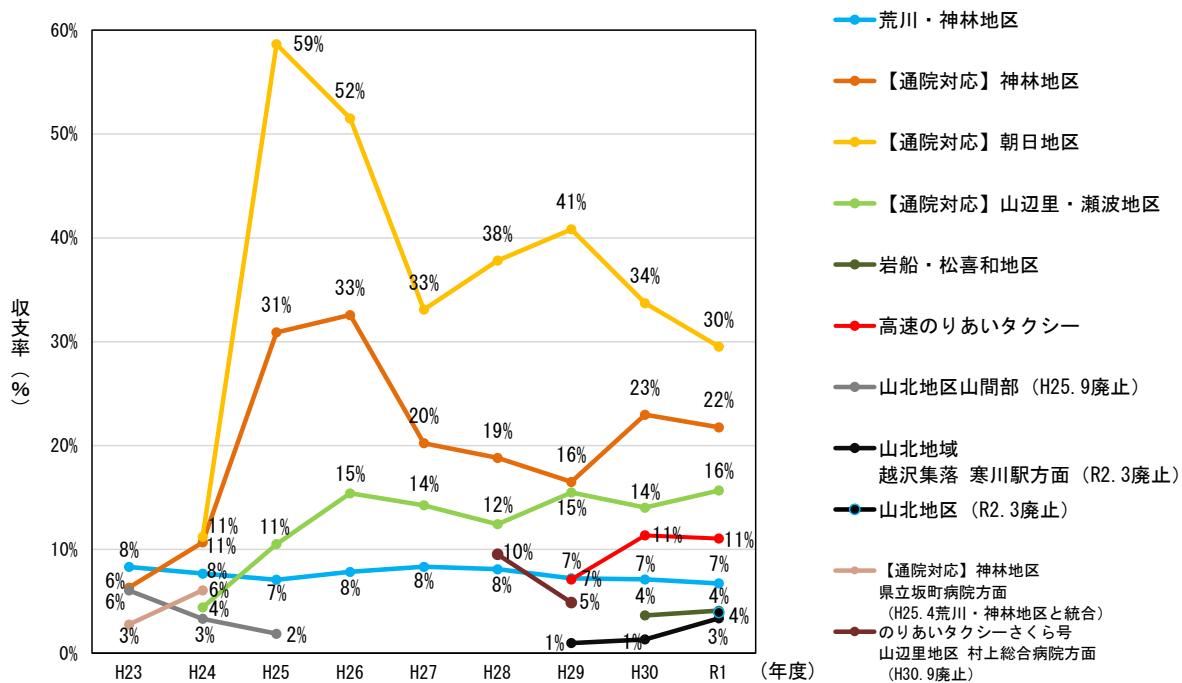


図 各のりあいタクシーの収支率の推移

資料：村上市

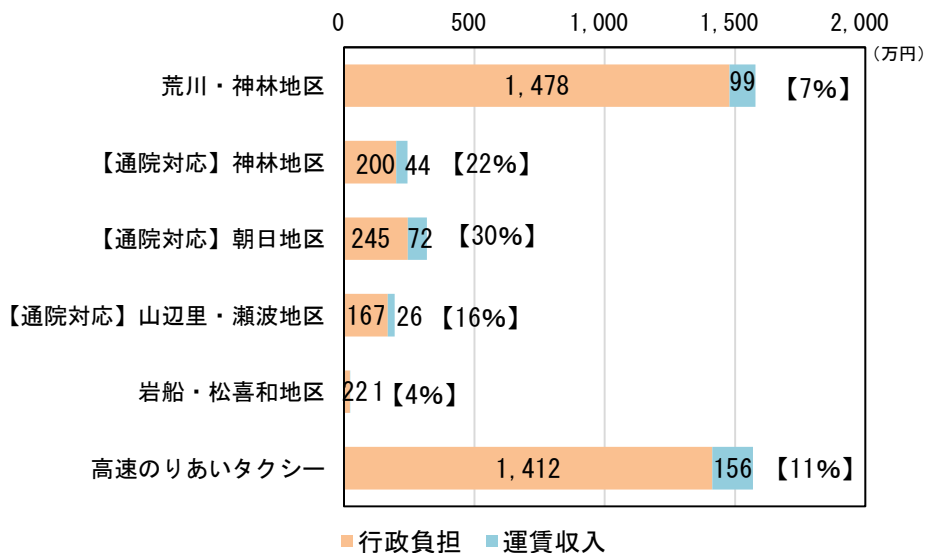


図 各のりあいタクシーの運行経費 (令和元年度)

※【】内は収支率  
資料：村上市



### (7) タクシー

○村上市内では、5社のタクシー事業者が運行しています。

○村上市内のタクシーの利用者数は、年々減少しています。



図 村上市内のタクシー事業所

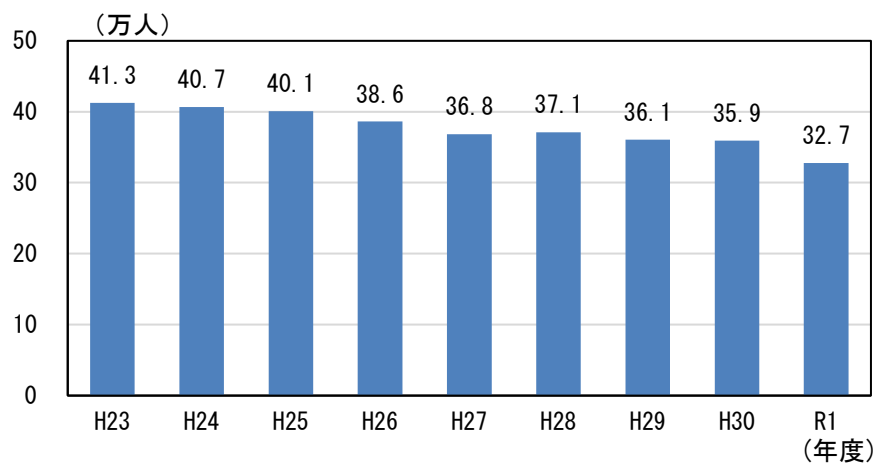


図 村上市内のタクシー事業者の年間利用者数

資料：新潟県ハイヤー・タクシー協会

(8) その他の移動手段

1) 山北徳洲会病院外来バス

○山北徳洲会病院では、通院者を対象としたバスを運行しており、令和元年度は山北地域で約1,700人（全体で約3,900人）が利用しています。

○山北地区で5コース（全体で10コース）が運行されており、各コース週2日程度の運行頻度となっています。

表 山北徳洲会外来バスの各コースの運行曜日

曜日	コース	病院着時刻
月・木	平沢・鼠ヶ原（温海）	8:55
	戸沢・五十川（温海）	9:10
	大沢・下大鳥（山北）	8:50
火・金	山熊田・中継（山北）	8:55
	早川・笹川（山北）	8:50
	温海川・湯温海（温海）	9:10
水・土	越沢・寒川（山北）	8:50
	関川・早田（温海）	9:00
	雷・府屋（山北）	9:00
火のみ	越沢（庄内）（温海）	8:50

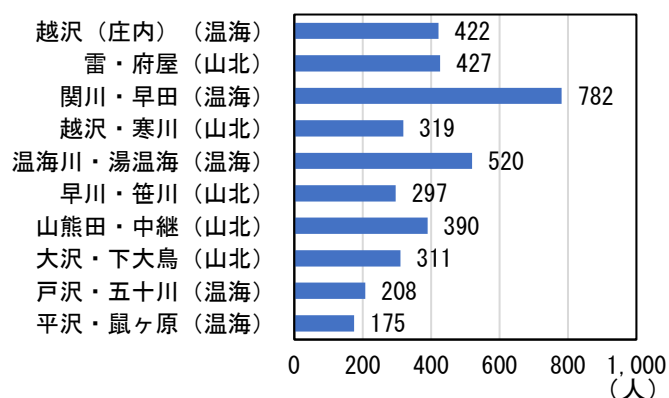


表 山北徳洲会病院外来バスのコース別の利用者数（令和元年度）

資料：山北徳洲会病院

## 2) イオンシャトルバス

○イオン村上東店では、平日及び毎月 15 日、20 日、30 日に、村上駅とイオン村上東店(村上プラザ)間で無料シャトルバスを運行しており、年間約 16,400 人が利用しています。

表 イオンシャトルバスの時刻表

発着場所	1 便	2 便	3 便	発車場所	1 便	2 便	3 便
村上駅 発	9:45	10:30	11:30	イオン村上東店 発	11:00	12:00	13:00
イオン村上東店 着	10:00	10:45	11:45	村上駅 着	11:15	12:15	13:15

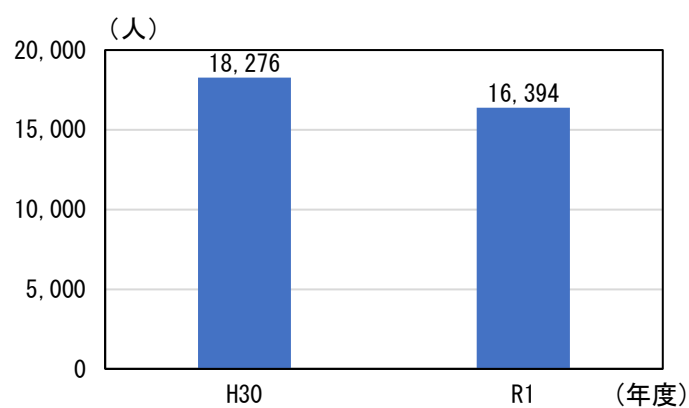


表 イオンシャトルバスの年間利用者数

資料：村上プラザ

## 第3章 公共交通の課題

### ①医療施設の移転

○村上総合病院は、令和2年12月に現在の村上駅の東側から、村上駅の西側へ移転しました。

○それにより、路線バス等の公共交通の運行ルートを変更しましたが、路線の重複区間が長くなりました。村上総合病院を利用する方の移動手段を維持、確保していくため、より効率的な運行を実施するなど、公共交通ネットワークの見直しが必要です。

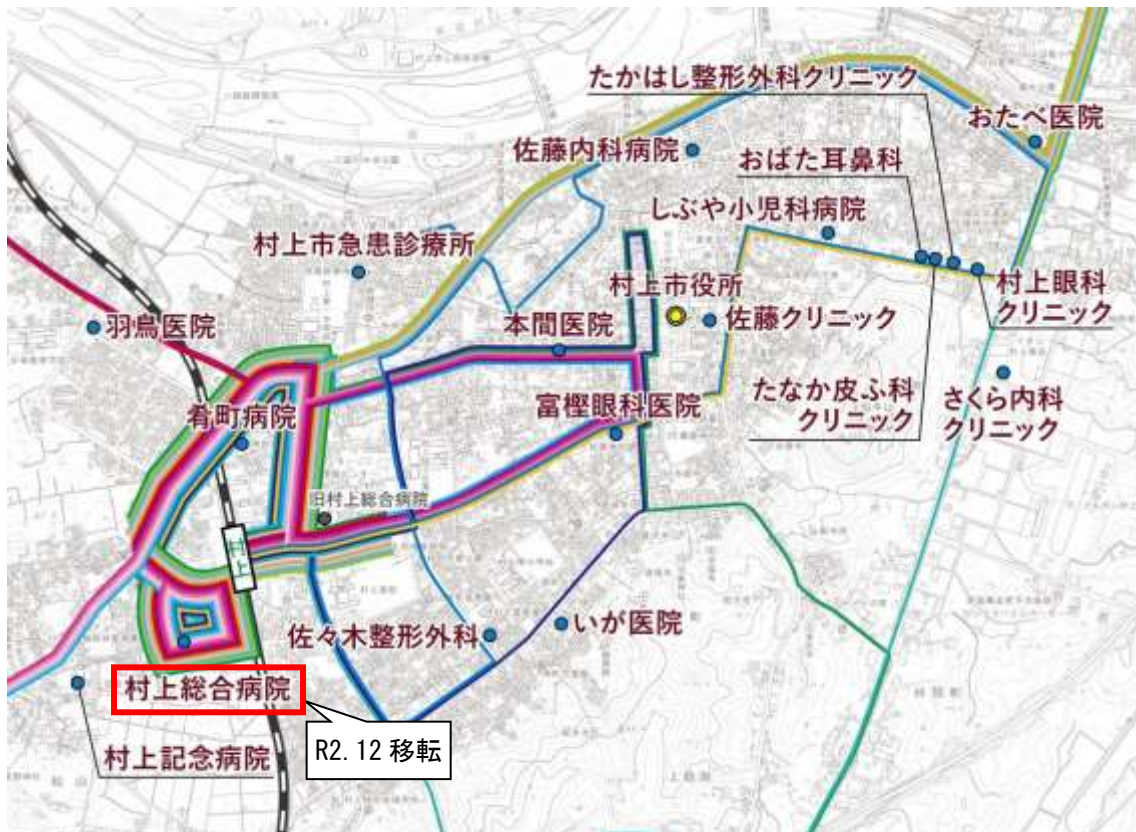


図 村上総合病院の移転場所

資料：村上市

## ②新潟市への通院手段の確保

○村上市と新潟市を結ぶ高速バスが、収支状況の悪化により平成28年9月に廃止され、この代替として、平成29年4月から予約制の高速のりあいタクシーを運行しています。高速のりあいタクシーは、行き2便、帰り2便の計4便を運行しており、新潟市内の病院への通院手段を確保しています。

○高速のりあいタクシーにかかる経費は年間約1570万円（令和元年度）で、収支率は11%となっています。今後も持続可能な運行としていくためには、運行日を減らす等、利用実態に即した効率的な運行内容の実現を目指す必要があります。

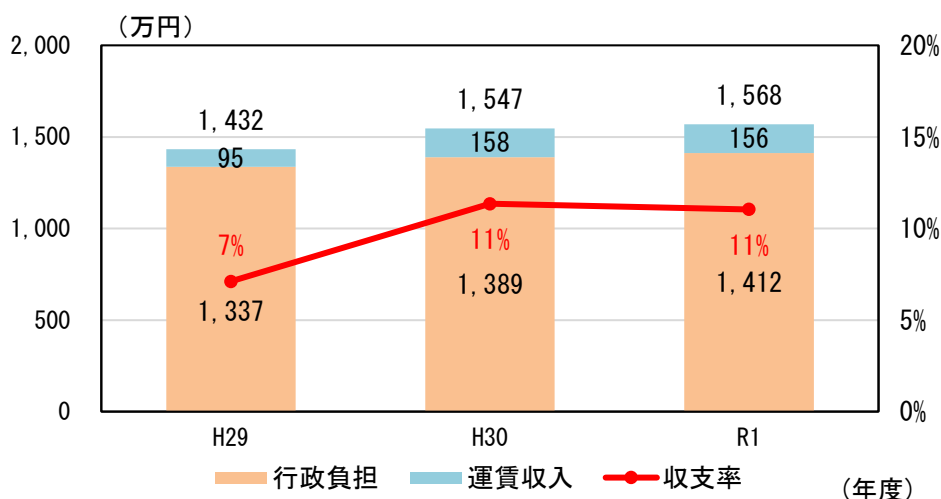


図 高速のりあいタクシーの運行経費

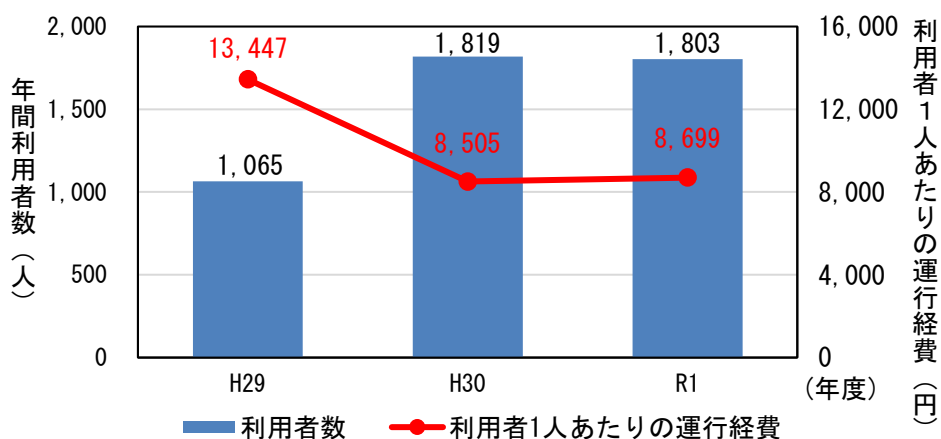


図 高速のりあいタクシーの利用者数と1人あたりの運行経費

※ 【】内は収支率  
資料：村上市

### ③広く分散している集落（交通弱者※）に対する通院手段の確保

○路線バスは、主に村上市街地と旧町村間を結ぶように運行していますが、バス路線から離れたところにも集落が分散しており、特に高齢者にとっては、自宅から停留所までの距離が長く公共交通が利用しにくい状況となっています。

○路線バスを補完するため、通院を主な目的とする通院対応のりあいタクシーなどを運行していますが、中山間部においては人口減少や高齢化が進んでいる影響もあり、利用者数は平成27年度以降減少傾向となっています。そのため、より利用者のニーズに沿った運行による利用者の定着や、効率的で持続可能な運行内容への見直しにより、高齢者の通院手段を確保していく必要があります。

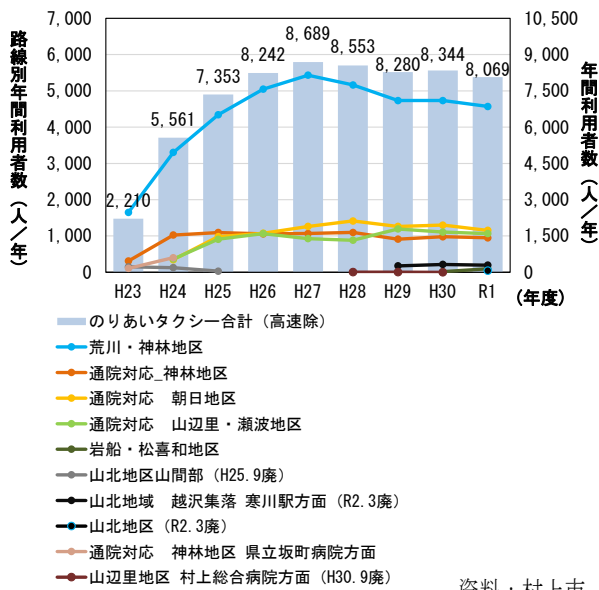


図 のりあいタクシーの年間利用者数

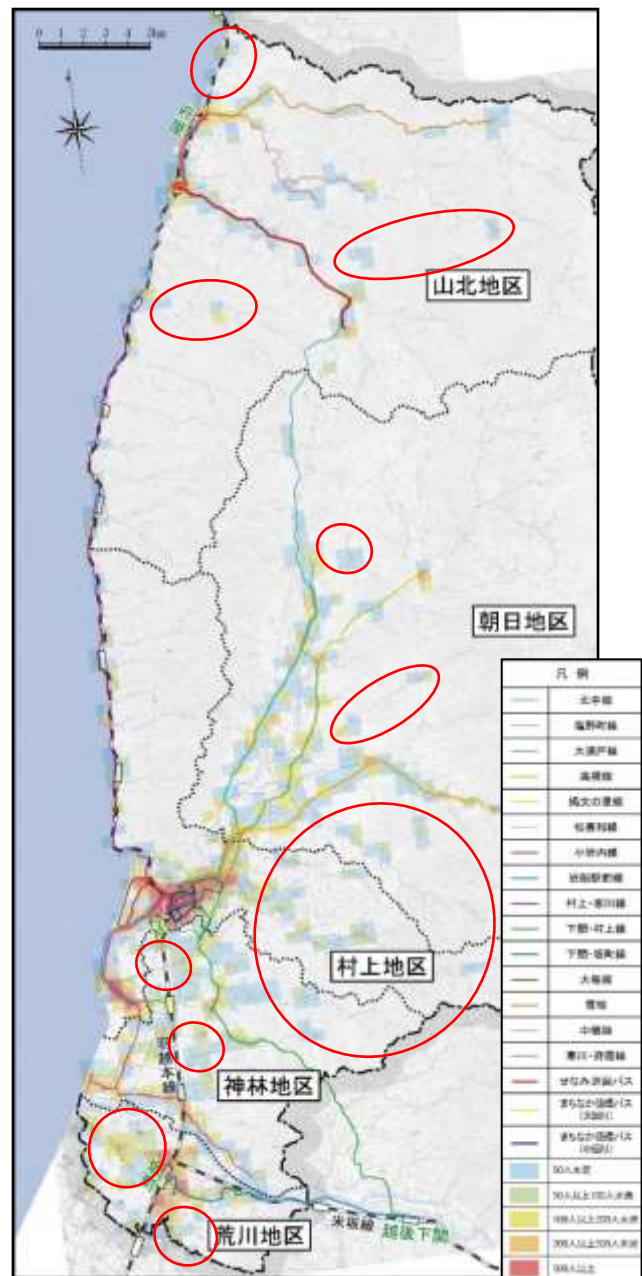


図 路線バス鉄道の主な不便地区

※本計画における「交通弱者」とは、自動車運転免許や自家用車を保有しておらず、移動を公共交通に頼らざるを得ない人のことで、主に高齢者や高校生を指す。

#### ④タクシー会社がない地区への対応

○令和2年3月に、山北地区唯一のタクシー事業者が廃業となりました。山北地区では、路線バスの村上・寒川線、寒川・府屋線、大毎線、中継線、雷線が運行していますが、バス路線から離れたところにも集落が点在しています。

○山北地区では高齢化率が47%と進んでいます。路線バス等はあるものの、人口が少ないため運行頻度が低く、時刻が合わなかった場合に利用するタクシーが運行していないことは大きな問題です。よって、運転免許を保有していない住民や、高齢者の事故抑制に向けた公共交通の確保が必要です。

表 山北地区のバスの運行便数（片道）

路線	平日	土曜	休日
村上・寒川線	2.0 便	運休	運休
寒川・府屋線	2.0 便	運休	運休
大毎線	6.5 便	6.0 便	6.0 便
中継線	4.0 便	4.0 便	4.0 便
雷線	4.0 便	4.0 便	4.0 便
山北徳洲会病院 外来バス	1 便	1 便	運休

※山北徳洲会病院が運行している外来バスは、各コース週2日運行しており、1部のコースは土曜も運行。

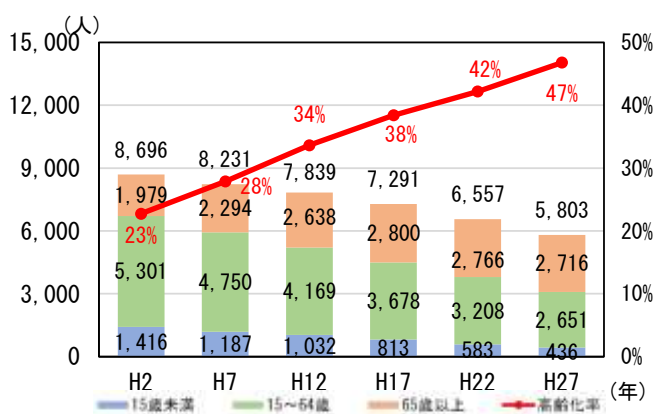


図 山北地区の人口推移

資料：国勢調査（H2～H27）



表 村上市内のタクシー事業所

資料：村上市



### ⑤観光客の移動手段の確保

- 村上市では、温泉や海水浴場、まち歩きなどの観光資源があり、村上地区の市街地を中心に観光客が多くみられます。しかし、観光資源は市街地内で分散して立地しており、観光客がこれらを効率的に巡ることができる手段を確保する必要があります。
- 現在、主要な観光施設が集まる村上地区では、市街地の観光地を巡るまちなか循環バスや、瀬波温泉を巡るせなみ巡回バスを運行しています。観光の玄関口である村上駅からの二次交通をさらに利用しやすい形に整備することで、現在は横ばいで推移している観光客数の増加に加え、鉄道利用者の増加による沿線住民の生活の足の確保・維持につながると考えられます。



図 主要観光施設の立地

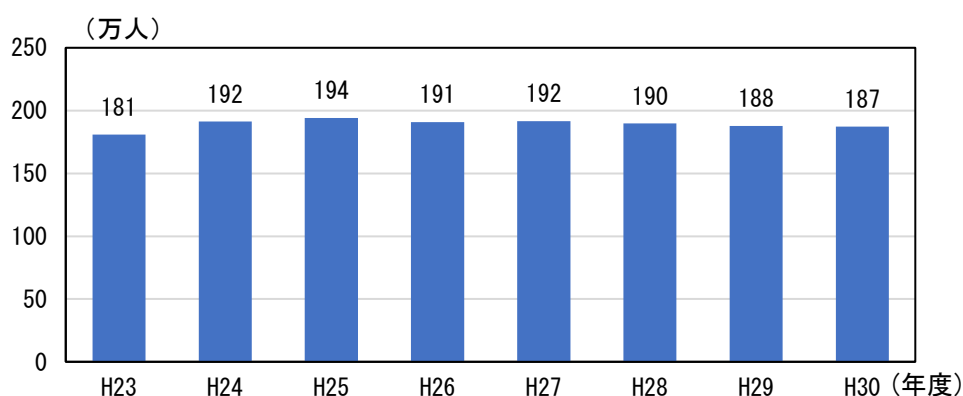


図 観光客入込数

資料：新潟県観光入込客統計（H23～H30）

### ⑥効率的な運行の実施

○村上市では、先に述べた公共交通の課題を解決すべく、のりあいタクシーをはじめとする公共交通の運行や路線バスへの補助などを実施していますが、市町村合併により広域な市内に集落が分散しているという地域の特徴から、公共交通の運行経費が高く、財政負担が大きくなっています。

○よって、持続可能な公共交通の確立を目指し、市民の移動ニーズに応じた、効率的な運行への見直しが必要です。

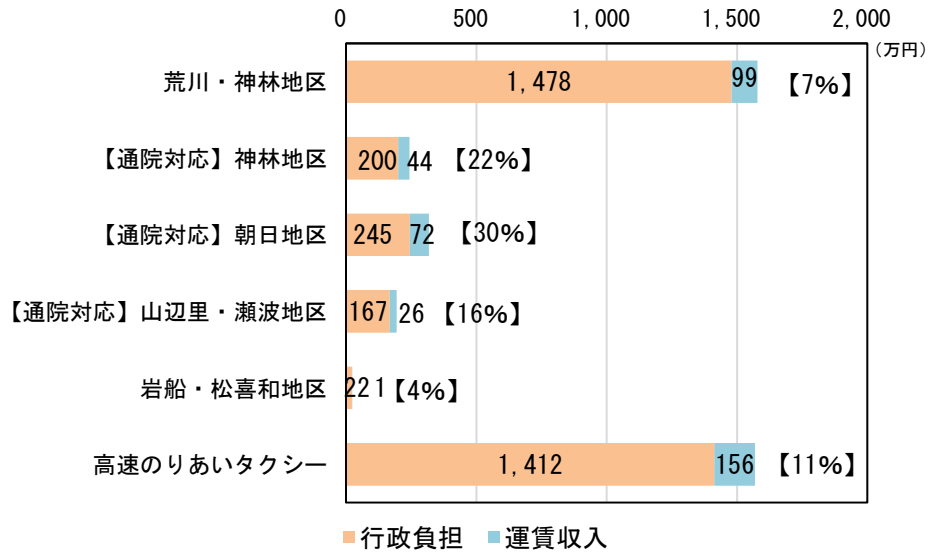


図 各のりあいタクシーの運行経費（令和元年度）

※【】内は収支率  
資料：村上市